

8 【分析7】 中学校学力向上対策事業 研究指定校の状況

中学校学力向上対策事業は、複数の中学校が連携するなどして学習指導の内容及び方法に係る実践的な研究を進め、その成果を検証・普及することにより、本県中学生の学力向上を図ることを目的としたものであり、平成21年度から展開している。

タイプⅠ：学力向上研究推進地域（学校横断型）＜18 地域，67 校＞

タイプⅡ：学力向上研究推進校（単独校型）＜10 校＞

(1) 研究指定校の概要

① 調査実施指定校数及び集計対象者数

タイプ別	指定校数	集計対象者数
学力向上研究推進地域（学校横断型）	67 校	2,014 名
学力向上研究推進校（単独校型）	10 校	1,342 名
合 計	77 校	3,356 名

② 教科に関する調査の結果

(ア) 指定校の平均通過率

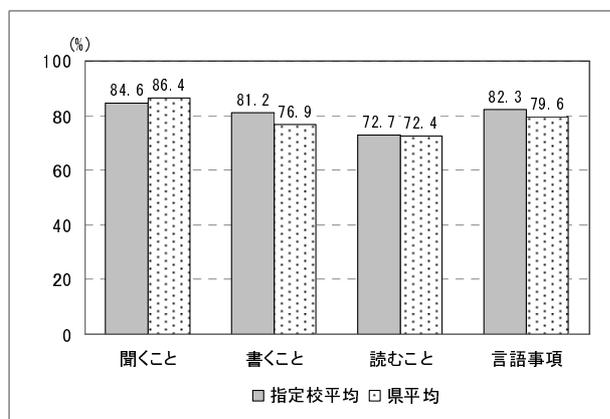
	国 語	数 学	英 語
全指定校（77 校）平均（%）	79.3	74.5	72.7
県平均（%）	77.4	72.6	70.2
県平均との差（ポイント）	1.9	1.9	2.5

(イ) 指定校の状況

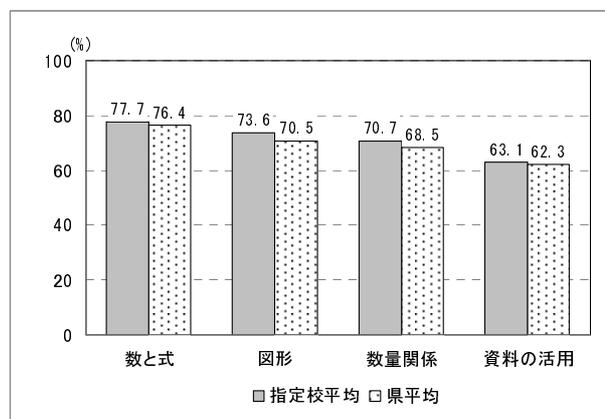
	国 語	数 学	英 語
通過率が県平均を上回っている指定校の割合（%）	68.4	70.1	66.2
昨年度からの通過率の伸びが県全体の伸びを上回っている指定校の割合（%）	50.0	44.2	54.5

(ウ) 領域等別平均通過率

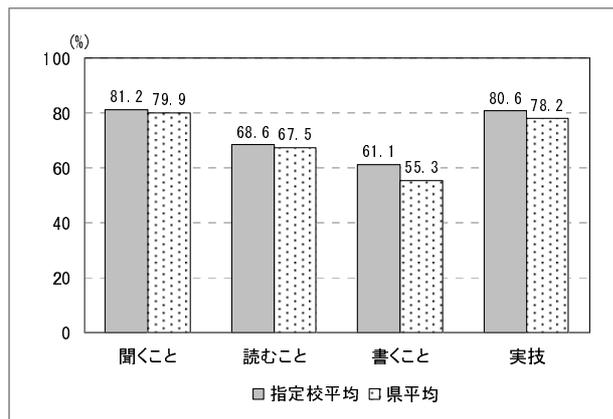
◆ 国 語



◆ 数 学



◆ 英 語



(2) 平成 21 年度調査で、課題のあった各教科の設問の解答状況

ここでは、平成 21 年度の「基礎・基本」定着状況調査において、課題のあった各教科の設問について、指定校の設問ごとの通過率の状況を県平均と比較し分析した。

<平成 21 年度調査で課題のあった設問>

- 国語 「主語・述語の関係」「登場人物の心情の把握」「文章の展開の把握」
- 数学 「垂直な面」「規則性を見だし文字式で表す」「円すいの体積」
- 英語 「適切な語を用いた会話文の組立」「概要や要点の把握（曜日の聞き取り）」
「概要や要点の把握（日付の聞き取り）」

- 昨年度、課題のあった各教科の設問について、今年度、県平均より指定校の平均通過率が高かった設問は、国語では、「主語・述語の関係」、「登場人物の心情把握」、数学ではすべての設問、英語では、「適切な語を用いた会話文の組立」、「概要や要点の把握（曜日の聞き取り）」である。
- また、県平均通過率との差を、昨年度と比較したところ、指定校が伸びた設問は、国語では、「主語・述語の関係」、「文章の展開の把握」、数学ではすべての設問、英語では、「適切な語を用いた会話文の組立」、「概要や要点の把握（曜日の聞き取り）」である。

◆ 国 語

調査年度	主語・述語の関係		登場人物の心情の把握		文章の展開の把握	
	H22	H21	H22	H21	H22	H21
指定校平均 (%)	67.7	45.4	51.7	45.5	73.5	54.9
県平均 (%)	57.1	40.1	51.4	44.0	73.8	56.5
県平均との差 (ポイント)	Ⓐ 10.6	Ⓑ 5.3	Ⓐ 0.3	Ⓑ 1.5	Ⓐ -0.3	Ⓑ -1.6
差の比較 (Ⓐ-Ⓑ)	5.3		-1.2		1.3	

◆ 数 学

調査年度	垂直な面		関係を文字式で表す		円すいの体積	
	H22	H21	H22	H21	H22	H21
指定校平均 (%)	58.0	38.2	50.4	47.5	60.0	50.3
県平均 (%)	51.8	38.9	47.0	44.4	55.7	48.2
県平均との差 (ポイント)	Ⓐ 6.2	Ⓑ -0.7	Ⓐ 3.4	Ⓑ 3.1	Ⓐ 4.3	Ⓑ 2.1
差の比較 (Ⓐ-Ⓑ)	6.9		0.3		2.2	

◆ 英 語

調査年度	適切な語を用いた会話文の組立		概要や要点の把握 (曜日の聞き取り)		概要や要点の把握 (日付の聞き取り)	
	H22	H21	H22	H21	H22	H21
指定校平均 (%)	36.0	18.9	87.1	35.8	54.3	45.3
県平均 (%)	30.4	21.3	85.3	36.0	55.2	44.8
県平均との差 (ポイント)	Ⓐ 5.6	Ⓑ -2.4	Ⓐ 1.8	Ⓑ -0.2	Ⓐ -0.9	Ⓑ 0.5
差の比較 (Ⓐ-Ⓑ)	8.0		2.0		-1.4	

(3) 生徒質問紙の回答状況

ここでは、平成21年度と今年度における生徒質問紙調査の肯定群（あてはまる）について、指定校の伸びと県平均の伸びとを比較した。

■ 昨年度と比較した肯定群の伸びが、県平均の伸びと比較して高い質問項目（上位3問）

◆ 生活と学習

質問項目	指定校の 伸び	県平均の 伸び	差
学校の授業の復習をするようにしています。	8.0	2.6	5.4
分からないことはそのままにせず、分かるまで努力しています。	5.7	0.3	5.4
ものごとを解決する方法をいくつも考えています。	5.5	0.5	5.0

◆ 国 語

質問項目	指定校の 伸び	県平均の 伸び	差
国語の授業では、中心となる言葉や文に線を引きながら、文章を読んでいます。	7.6	1.0	6.6
国語の授業では、話をするとき、最も伝えたい中心をどこで言うと分かりやすいか考えながら話しています。	6.2	0.7	5.5
国語の授業を楽しみにしています。	7.1	1.8	5.3

◆ 数 学

質問項目	指定校の 伸び	県平均の 伸び	差
数学の授業では、反比例の関係にあるかを考えるときには、反比例の特徴だけでなく、比例の特徴と比較しながら考えています。	5.2	1.2	4.0
数学の授業では、理由をあげて自分の考え方や解き方を説明しています。	5.7	2.1	3.6
数学の授業では、文章に書かれている関係を式で表すために、言葉の式や図を使って考えています。	2.5	-0.8	3.3

◆ 英 語

質問項目	指定校の 伸び	県平均の 伸び	差
英語の授業では、相手が英語で話している質問や依頼などを聞いて、それに答えています。	6.1	0.9	5.2
英語の授業では、物語や説明文などの英語で書かれた文章を読むときは、書き手の伝えようとするものは何かを考えて読んでいます。	7.3	2.2	5.1
英語の授業で学んだことが、他の教科や生活の中で、読んだり、話したり、コミュニケーションをとったりすることの役に立ちます。	5.0	0.5	4.5

(4) 学校質問紙の回答状況

ここでは、平成21年度と今年度の「基礎・基本」定着状況調査の学校質問紙調査の肯定群（あてはまる）について、指定校の伸びと県平均の伸びとを比較した。

■ 昨年度と比較した肯定群の伸びが、県平均の伸びと比較して高い質問項目（上位3問）

◆ 生活と学習

質問項目	指定校の 伸び	県平均の 伸び	差
「基礎・基本」定着状況調査報告書の指導改善事例を活用した授業研究を行った。	27.7	13.0	14.7
「基礎・基本」定着状況調査報告書の分析を活用して自校のデータを分析・考察する研修を行った。	22.7	13.5	9.2
既習内容の活用、他の文章や資料との比較、見通しや予想など、考える方法を教える指導に重点を置いた。	12.6	4.7	7.9

◆ 国 語

質問項目	指定校の 伸び	県平均の 伸び	差
文学的な文章の学習において、場面の情景や心情を読み取る際に、生徒の過去の経験を引き出したり、その状況に近い場面を想起させたりすることにより、登場人物の立場で場面の情景や心情を想像させる指導の工夫を行った。	9.8	0.3	9.5
複数の文章を取り上げ、観点を設定して比べて読ませ、共通点や相違点を整理させるなどの指導の工夫を行った。	20.4	11.2	9.2
国語の授業において、生徒にめあてと対応した自己評価をさせた。	13.3	6.2	7.1

◆ 数 学

質問項目	指定校の 伸び	県平均の 伸び	差
友達の考えと自分の考えを比べさせるために、それぞれの考え方や解き方を説明させるなどの指導の工夫を行った。	16.1	3.8	12.3
事象の中の数量関係を文字を使って表す指導において、先に式を与えて文章を考えさせるなどの指導の工夫を行った。	13.0	4.1	8.9
おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例することを理解させるために、半円や四分の一円を使って、弧の長さや面積と中心角の関係を考えさせる指導の工夫を行った。	12.5	4.3	8.2

◆ 英 語

質問項目	指定校の 伸び	県平均の 伸び	差
辞書を活用させるために単語や熟語の意味を調べる宿題を多く出すようにするなどの指導の工夫を行った。	11.7	4.5	7.2
話すことの言語活動において、話が続くようにさせるために、つなぎ言葉や身振り手振りなどが必要となる言語の使用場面を設定するなどの指導の工夫を行った。	10.5	4.9	5.6
CD、VTRなどの視聴覚機器を活用した授業を行った。	6.0	1.0	5.0